

---

# 大陸の西と東

ddds

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

大陸の西と東

### 【Nコード】

N7618Y

### 【作者名】

ddds

### 【あらすじ】

人類が太陽系外宇宙へ出るようになって約一世紀  
日本の移民船団が出航直後に遭難。たどり着いた先は魔法によって形成された権力が支配する惑星、ハルケギニアだった。ハルケギニアに宇宙文明現る。

## はじめに

まず始めに言っておくべきことは、これは

『技術史な使い魔』の書き直しです。

書き直しと言っても全く同じではありません。

多少内容が変更されています

技術史な使い魔は現在非公開になっております

読みたい方は・・・私までメッセージお願いします

ただし、多大なネタバレとショボい文章に覚悟しておいてください

また、ここの感想でネタバレをした方にはもれなく

赤軍兵一日体験インスターリングラードをプレゼントいたします

もちろんレビューもです。

更に、特定のアニメやゲーム等のネタ、キャラクターを使用する場合がありますが、

基本はゼロの使い魔ですので、ご存じない方も安心して読んでいただけると思います

ただし、知っておくと理解がしやすいものもあります。

以下がその一覧です

アニメ 攻殻機動隊

アニメ 超時空要塞マクロス（マクロスFのいいかも）

映画 コマンドー

その他増えることもあるかもしれませんが、  
知らない方でもなるだけ分かるように書いていきたいと思います。

ただし、最低限の軍事知識は知っておいたほうがいいかもしれません  
一応説明はするつもりですが、分からないかもしれません。

まあグダグダと長くなってしまいましたが、  
最後まで読んでいただけると幸いです

最後にひとつ

原作は読んでいません。

アニメとwikiだけを頼りにして書くと思います

・・・まあ今のところそれで不自由は無いですし。

## はじめに（後書き）

初期特典として技術史な使い魔のアドレスを密かに表示

`http://ncode.syosetu.com/n6712w/`

数週間で消えます

## ブローグ

世界初の商用核融合炉の完成から数世紀、  
人類の使うエネルギー量は限界に達しつつあった

日に日に増大する使用エネルギー量

世界各地に増え続ける核融合炉

$3\text{He}-\text{D}$ の核融合炉のために月に都市が作られ  
ヘリウム3を採掘しているが

その量は日々増大し、人類は木星から持って来るといふ決断をするも  
木星までは非常に遠く、また事故也多発し、

安定的に供給はできなかった。

だがエネルギーを手に入れるためには無理でもやった。

そして人類は最後の手段に出る。

巨大な核融合炉である太陽の放出するエネルギーを全部集める

『ダイソン球』というものを作ると決めたものの

あまりに莫大に必要な資源、

超長期に渡る工期

完成は500年後となってしまうた

20世紀後半の核融合炉の完成からというものの、  
科学はそこまで進歩せず、進んだものと言えは

生物、素材、航空宇宙系の技術ばかりである。

同時に食料の不足にも悩んでいた

人類は地球の循環システムに影響を与えない最大限の農地を開拓し、先進国が莫大な資金を使い、砂漠を緑化し、足りない分は工場で作

り、土を食べる研究をもし、ついに糞尿にすら手を出しても人類には食料が足りそうになかった

地球の総人口170億人

核融合炉用のヘリウム3の採掘施設を中心とする月面都市の総計が2000万人

テラフォーミングの最終段階にある火星の人口が4億人

金星の高高度で飛びながら金星のテラフォーミングを行う浮遊都市というより飛行都市連合が

4000万人

木星の衛星系や土星、その他の惑星の衛星軌道上で資源回収をしている前哨基地が

120万人

が、それは恒星外移民が始まるまでの話だ  
100年程前、日本において超高速航行法が確立され、  
惑星外移民を始めてからは更に恒星外に幾つかの居住可能惑星や  
テラフォーミング可能な惑星が発見され  
太陽系外の人口も50億人に達し、

人類は銀河系全体にその勢力圏を広めていった

そしてきつかり100年目になる今日

日本国第22次移民船団「瑞鶴」は未だ未知である銀河の中心方向  
へ向けて

旅立とうとしていた・・・

福島県は双葉市

かなり昔の話となるが、「原子力発電所」なる原始的発電所の事故  
により

人が住めなくなった

しかしその後ナノマシン技術の進歩により放射性物質の回収が容易  
になるも、

元の住人はすでに大半が死亡していたため、結局無人地帯に  
そこに宇宙港が建設されたのだ

周囲30キロは無人だったため騒音被害も発生せず、  
それまでの宇宙港だった種子島に比べて首都圏にも近いため、  
世界一の宇宙港として大いに発展した

移民の開始からは複数の大規模ドックやその付随工場が建設され  
人口は300万にも達する都市になった



無事出港式を終え

超大型居住艦 1

大型居住艦 2

大型製造艦 2

環境艦 6

小型製造艦 4

娯楽艦 8

戦闘艦 1 2

多目的艦 2

からなるこの船団は

日本国の名を掲げてはいるものの

実態は独立国家であり、法律も行政も日本とは全くの別物であった  
大統領制だし、物資統制はかかることもあるし、

船団内総動員法、人口制限法すら存在するのだ

現在の人口は 1 0 0 0 万人 5 0 0 0 万人まで対応できるようにな  
っている

全ての艦で環境システムが共有されていて、

最低でも環境艦が 2 隻ないと環境システムは崩壊してしまう

全長 5 0 キロにも及ぶ船団は、2 時間かけて大気圏を離脱

その後月軌道を通過し超光速航行へ移る・・・が

主観でわずか一時間後のことである

「何があつたんだ たたき起こしたからには何かあるんだろうな」

大統領になった男が中央管理室に現れた

どうも寝ていたらしく、髪はボサボサでしかも寝間着だった

それほど重要なことだということだ

そのマヌケな姿を見たものが

船団の最高権保有者とは誰も思っまい

「実は……」

画面を監視していた男が何かを言いかける

「なんだ 正直に言ってくれ」

「突然空間が歪んだんです」

「当たり前だ 歪めて飛んでいるんだろう」

超高速航行と言うのは

引力を特定の方角へ出すという

未知の常態にある物質に電荷をかけて

空間を歪ませると言う

正直、結果は分かるけど何がどうなっているのかは分からない  
という技術なのである

「歪んでいるというところじゃないですね 空間に穴が開いている  
んです」

「なん・・・だと・・・」

空間に穴がある

この現象は特殊な状態でしか発生しない

ブラックホールである

非常に強力な重力により空間が無限に落ち込んでいるので離脱できない。

「球状の穴」である

「そんな馬鹿な 地球から50光年も離れていないんだぞ」

「ブラックホールではないようです。引力がないですから。ですがもう手遅れのようなですね・・・」

「何・・・?」

大統領が周りを見ると

超光速航行で周りは真っ黒だったはずが星が見えるようになっていた

「というか俺を呼び出す必要はあったのか? 電話のほうがいいじゃないか」

「いいえ 穴が発生したときには既に手遅れでした」

しかし空間の穴に入り込むなどということは前代未聞であり、何が起るのかわからない状態だった

ブラックホールならすぐにバラバラになるのだから

だが彼らはすぐに理解した

「ここは故郷から遠く離れた地」であると

「報告を始めてくれ」

大統領が緊急閣議とドアに書かれた会議室に入り各大臣に報告を要求する

最初に天文大臣と書かれた席の男が手元の資料を読んで説明し始める

「現在 無人・有人探査機を全て使って星図の制作を全力で行っておりますが、半径10光年の恒星系の星図が完成しました  
これがその資料です」

「これは・・・」

「どうということだ・・・」

会議室が騒がしくなる

「ええ。間違いありません。太陽系です。」  
天文大臣は続けて言う

「我々のよく知る太陽系のように水星、金星、地球、火星、木星、土星、天王星、海王星。

それぞれによく似た星が確認されています」

「だが我々の太陽系ではない」

「その通りです。いかなる電波も宇宙船も確認されていません」

「で、我々が一番知るべきなのは・・・」

「勿論地球です。次の資料をご覧ください」

その時 また会議室が騒がしくなった

「この恒星系の第三惑星 仮に地球と呼称しますが、地球にはご覧のように適度な大気と青い海が確認されています」  
それは無人探査機の撮影した画像だった

青い大気に包まれて茶色と緑の陸地を囲むような青い海  
間違いなく地球だった

「ここまで似ているのに・・・」

「ええ、月が2つなんです」

天文大臣は続けて言う

「この二つの月は本来ならそれぞれ引かれてひとつになるはずですが、近すぎるんですよ。」

「どうしてそんなことに？」

「分かりかねますし想像も予想もつきません。正体不明の力としか。」

「その力の検討は付いているのかね？」

「いえ、全く想定できません」

「今後はこの恒星系第三惑星の観測を強化すべきかと」

「それで問題ないしそれ以外思いつかないな」

次に外務大臣が話す

「まずこの状況から言つて、

地球との連絡はほぼつかないと考えていいでしょう。

また、他の移民船団などとも連絡が付きそうにありません。」

「すべての周波数帯を監視するほかないな」

「それが懸念かと」

が、それは日常の任務なので特に代わり映えはない

次に環境大臣が話したす

「船団全域において循環システムは良好。食料備蓄も36ヶ月分はあります。」

「つまり異状なしということだな」

その他の大臣の報告も終わり、本題に入っていた

「あの星をどうするかだな・・・」

「とりあえず距離が2光年があるので火星軌道あたりまで入って近くから観測ですかね」

「それ以外考えられないな」

なんせ何年も旅をした先で見つけるつもりだった移住候補の惑星が  
今自分たちの目の前にあるのだから

移住を主目的としている以上、それしか考えられなかった

2光年は目の前と言えないかもしれないが

数十分で行けるならそれは十分目の前と言える

「あと市民に伝えるかどうかだな・・・」

下手に発表して混乱してもらっては困る

強硬派が出てきて

『今すぐ地球に降りるんだ!』などと言われてはたまらないからだ

「とりあえず今は隠蔽ということだ」

「まあ明日までには嫌でもバレるだろうな」

幾つかの光学望遠鏡は民間のものが存在しているからだ  
趣味に使っている人もいるし仕事で使っている人もいる  
超光速航行中止については『機関の故障』にしておいた  
出発早々故障しては不安がられるかもしれないがパニックにな  
るよりはマシだった

だが、開始早々の閣僚会議に不信感を持つ人も少なくなかった

次の日

緊急の大統領府発表となり、事態を説明することになった大統領は混乱しつつあった

単純に『どう説明するんだよこれ……』ということである

『えー……結論から申しますと』

『地球との通信が途絶しました』

その時

時間が凍結した

街全体の時間が止まったように見えたのだ

ありえないことだが、人間の主観で止まったように見えるならそれは止まっているも同然である

次の瞬間

記者の質問攻めになった

『どういうことですか？説明してください』

『地球に何が起こったんでしょうか』

というよりパニックだった

電話網はパンクし、ネットもサーバーダウン



危惧していたことそのものだった  
当然だ。宇宙広しといえど安心して帰れる星はひとつしかないのだから

「とりあえず話を聞いてください」

続けて今置かれている状況、  
そして今後の予定などを説明した

ある記者が言う

「我々は地球に帰れるんでしょうか？」

「分かりません。ですが、なくても帰れる場所を作る必要があります」

「つまり将来的に第三惑星への揚陸を行うと。」

「そういうことになります」

ですが今後の調査内容によってはそれが大幅に遅れたり、  
最悪降りれない可能性もあります」

それを最後に記者からの質問は終わった

早速超光速航行で火星軌道まで移動することとなり  
わずか30分のワープを行った

その先にあつたのは

間違いなく地球だった

肉眼でもわかる。自分たちの知っている地球だと

某カップ麺のアニメみたいに赤かったりしない。

星戦争のコルサントようにビルで埋もれているわけでもない

間違いなく青い星がそこにはあつた

その日のうちに地球低軌道に向けて多数の人工衛星が放たれ、その日の行動は終了

大統領は寢床でこう思った

「ああ・・・めんどくせえことになったなあ・・・」

探索と移動を繰り返しているうちはたいしたことないと思っていたのに

初日からあの状態じゃあ体力が持たないし、

今後仕事も山積みだと思ふとかるく憂鬱になる

明日は昼まで寝よう。いつそ明日全部寝過ぎしちゃおう

子供のような発想にまで至ってしまう

それほど先が見えないのであつた・・・

つづ  
け

## プロローグ（後書き）

はい。ということで書き直しはじめました。

最初のあたりは不満が無いのでほとんど技術史な使い魔の転載です

来年の夏までには終わる・・・かな？

今でも思っけど最初のあたりってかなり不要なんですよね  
何で書いたんだろうか

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n7618y/>

---

大陸の西と東

2011年11月23日20時52分発行